

## ○京都府農林水産業人材確保育成戦略(仮称)(中間案)について

### 農 業

- ・ 学生寮について、就農後のことを考えると地域とのつながりや溶け込みも大事なので、街中に住んで地域と交流してもらうことも良いと思う。また、それにより地域の活性化にもつながると考える。
- ・ 普通科の高校から来た生徒は、農業の基礎知識がないことから、2年間では十分に理解できないまま卒業してしまう可能性がある。もう1年追加で学べるコースを用意しておいても良いと思う。
- ・ スマート農業教育について、基礎知識がないと失敗したときにロジックがわからないため対応できない。2年間という短い期間を考えるのであれば、基礎的なことをメインにした方が、将来を考えたときに良いと思う。一方で、新しい機械、触れたことのない機械に触れられるのは魅力的であり、他との差別化やPRとして活用していくことは有効と考える。
- ・ 若い人の力は魅力的であり、どの法人も欲しがっている。若い人が労働環境(休日や給与等)に何を求めているか知りたい。また、受け入れる法人の体制も時代の変化に応じて対応していかなければいけない。

### 林 業

- ・ 人材に新しい技術・知識を習得させると同時に、高度な人材の受け入れ先となる林業事業体の育成も必要である。
- ・ 農業・林業・水産業を横断し、人材育成施策の司令塔になる「農林水産業人材育成センター」を創設し、効果的な施策を展開するためのネットワークを構築する仕組みは画期的であり、新たな担い手を京都に惹きつけるための戦略が必要である。
- ・ この戦略を実行していくには、市町村との横断的な連携が大切である。
- ・ 他産業からの転職者を増やすことも必要であり、そのためには、配偶者の仕事や住居の確保など、家族や生活面の相談について、身近に行える体制づくりが必要である。
- ・ 戦略を作成する上での理念として、京都のブランド力を強みとして活かすべきである。

### 水産業

- ・ コミュニケーション能力の向上は、就業する側だけでなく、雇用する側にも必要なことではないか。
- ・ 移住者が世帯で入居できる住居の確保が課題。特に個人で漁業を営む際に必要な漁業協同組合の組合員資格は漁村に住居を有していることが取得要件になっている。
- ・ 府外からの移住者を増やす施策と同時に、京都府北部地域の高校に通う学生や当該地域出身者に対して、当該地域での就職を促す活動も必要。
- ・ 人材育成であれ定住支援であれ、業種を超えた人とのつながりを形成し、同期生のような存在を持たせることが大切